

所 管 事 項 調 査

	ページ
1 訴訟の現況について・・・・・・・・・・・・・・・・	1～2
2 長崎市立長崎商業高等学校の学科改編について・・	3～8

教育委員会

令和4年2月

2 長崎市立長崎商業高等学校の学科改編について

—情報科及びスポーツ系コースを新設する—

(1) 長崎商業高等学校（以下、長崎商業高校に略）の現状

現在の「情報国際ビジネス科」の1学科における学科編成は平成16年度に始まった。本科においては、1年次は全員が基礎的科目を共通して履修し、2年次から4つの分野（流通・国際・会計・情報）と進学コースの5つの中から選択するしくみになっている。

入学した生徒は、主体的に自分が選択した分野・コースで学び、多くの資格を取得し、令和2年度は、全商3種目以上1級合格者が117名と、全国の1,374校の商業高校の中で19位という高い成果を収めている。令和2年度の卒業生は、約39%の生徒が就職し、約61%が四年制大学や専修学校へ進学している。

また、就職した卒業生は、金融・保険、製造業、飲食業、医療関係などの企業に、事務系の職員として採用されている。この就職者全体の79%が長崎市内の企業等に就職しており、長崎市に多くの人材を輩出している現状がある。

一方、令和3年度の公立高等学校入学者選抜試験において、長崎商業高校の前期選抜の志願倍率は2.2倍、後期選抜の志願倍率は1.2倍と、長崎県下の公立高等学校の中では高い志願倍率であった。

部活動においては、体育系、文化系ともに、九州及び全国レベルで活躍している部活動が多く、県下の公立高等学校の中でも、上位の成績を収めている。

(2) 学科改編の理由

長崎市においては、若い世代の転出超過や、新たな産業の創出の必要性などの課題があり、長崎市の未来を担う人材の育成が求められている。したがって、長崎市唯一の市立高等学校である長崎商業高校には、その課題を解決する人材を輩出する役割がこれまで以上に求められている。

令和4年度の入学生から年次進行として施行される「高等学校学習指導要領 商業編」では、経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえた職業人の育成を目指した改善が図られている。このことは、長崎市が地域経済の活性化をめざして「交流の産業化」という目標を設定し、IT企業の誘致などを進めていること、民間企業が「長崎スタジアムシティプロジェクト」を立ち上げ、スポーツビジネス分野の可能性を広げようとしていること等、長崎市の現状とも重なる部分が大いにある。

したがって、「①長崎市の未来を担う人材の育成の視点」及び「②学習指導要領の改訂に関する視点」を踏まえた教育の実施が長崎商業高校に求められる。

(3) 学科改編の内容

ア 大学科「商業に関する学科」にスポーツ系コースの新設及び大学科「情報に関する学科」の新設

現行の情報国際ビジネス科における4分野1コースを、総合ビジネス科として3分野2コースに改編し、スポーツビジネスコースを新設するとともに、大学科として「商業に関する学科」の他に「情報に関する学科」を新設する。

○ 現 行

学科名	情報国際ビジネス科 6 学級 (240 名)
【1 年 次】	専門基礎科目の学習
【2 年次から】	・流通ビジネス分野 ・国際ビジネス分野 ・会計ビジネス分野 ・情報ビジネス分野 ・進学コース

○ 改編後

学科名	総合ビジネス科 5 学級 (200 名)	情報科 1 学級 (40 名)	
分野 コース	3 分野 1 コース 4 学級 (160 名)	スポーツビジネスコース 1 学級 (40 名)	—
1 年次	専門基礎科目の学習	単独の教育課程で 履修	単独の教育課程で 履修
2 年次	・マーケティング ビジネス分野		
3 年次	・国際ビジネス分野 ・会計ビジネス分野 ・進学コース		

イ 各科の教育目標

①総合ビジネス科

ビジネスの基礎・基本となる科目を共通履修後、生徒の適性・進路希望に応じて「マーケティングビジネス」、「国際ビジネス」、「会計ビジネス」の各分野のいずれかの領域を選択し、各領域の専門的な知識や技術を習得させるとともに、ビジネスに関する理解力と実践力を育成する。

また、スポーツビジネスコースにおいては、スポーツや健康に関する学習や実践的な活動を通して、社会の発展に貢献するスポーツリーダーを育成する。

②情報科

情報産業を通じ、地域産業をはじめとする情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力の育成とともに、情報の各分野に関わる将来のスペシャリストを育成する。

ウ 各分野等の教育目標等

選択分野等	教育目標	教育内容	特色
スポーツ ビジネス コース 【新設】	スポーツや健康に関する学習や実践的な活動を通して、社会の発展に貢献するスポーツリーダーの育成を図る。	スポーツ栄養学、スポーツ医学、スポーツ心理学などの専門科目を学びながらトレーニングを実践し、競技力向上を目指すことで、体育系を中心とした大学への進学及びスポーツ関連企業への就職を目指す。	専門家によるゲストティーチャーを招き入れ、講義や実技などを行う。生涯スポーツに関わる具体的な運動プログラムを作成し、地域へ推進活動を行うことで、ビジネスに必要なコミュニケーション能力の育成を図る。
情報科 【新設】	ソフトウェア開発に関する内容、情報通信ネットワークに関する内容、マルチメディアに関する内容など、情報に関する専門的な内容を学び、情報の各分野に関わる将来のスペシャリストの育成を図る。	基本情報技術者試験をはじめとする各種検定や資格試験の合格に向けた学習を生かし（または「通して」）、情報系を中心とした大学、専門学校への進学及び IT 関連企業への就職を目指す。	習熟度別授業を取り入れ、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、IT パスポート試験等を受験する能力の育成を図る。
マーケティング ビジネス分 野	ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力の育成を図る。	経済のグローバル化や顧客ニーズの多様化など市場環境が変化する中で、効果的にマーケティングを展開する力及び顧客を理解し、マーケティングの考え方を踏まえてビジネスを展開できる力を育成する。	マーケティングやマネジメント、商品開発等について学習し、経済や企業の動向の分析やビジネスに必要なとされるコミュニケーション技術の育成を図る。
国際ビジネス 分野	ビジネスの国際化に対応し、外国人とのコミュニケーション能力等、国際交流能力の育成を図る。	英語や中国語等の国際コミュニケーションの学習に併せ、インターネットを活用する。日本文化の理解を深めるとともに、異国文化の受容的態度を育成する。	ビジネスの場で活用できるように、外国語（英語・中国語）のコミュニケーション能力の育成に重点を置き、国際的なビジネスに対応できる資質・能力の育成を図る。

選択分野等	教育目標	教育内容	特色
会計ビジネス分野	簿記・会計分野の基本的な考え方や処理法に対応する知識と技術を習得し、財務諸表から得られる情報をビジネスの諸活動において合理的に活用する能力と態度の育成を図る。	企業会計に関する法規と基準に基づき適正な会計処理を行い、利害関係者に会計情報を提供する力及び会計情報をビジネスに効果的に活用する力の育成を図る。	簿記・会計分野の学習をさらに進め、大学の推薦要件や企業の会計処理に必要な高度な資格の取得を目指す。また、より実務に対応したコンピュータ会計を学習し、会計活用能力の育成を図る。
進学コース	経済系を中心とした大学や医療系の専門学校などに進学するための学力を身につける。	様々な進路選択に対応するため、専門科目を少なくして普通教科を多く学習する。	多様な進学先に対応するため、進学先に応じた科目を選択科目として設定している。簿記等の検定取得が出願資格となっているケースもあるため、上位の検定級を取得するための学習も選択できる。現代社会や国語表現・ビジネス経済などの学習において、推薦入試に必要な小論文のための知識を身に付けるとともに、書く力の育成を図る。

エ 現学科及び新学科の募集定員 [1学年]

《現行》	情報国際ビジネス科	6学級	240名
《改編後》	総合ビジネス科（商業）	4学級	160名
	総合ビジネス科（スポーツ）	1学級	40名
	情報科	1学級	40名

オ 新学科の開設時期 令和5年度から

(4) 今後の日程（予定）

[令和2年度] 長崎商業高等学校学科改編審議会の設置及び審議

(答申概要) スポーツビジネスに関する学科及び情報分野に関する
学科の設置を検討すること。

[令和3年度] 教育委員会における検討（長崎商業高等学校等との協議を含む。）

年	月	内容等
令和4年	4月	○県から学科名及び募集定員の照会・報告
	6月	○県による公立高等学校生徒募集定員等の公表
	8月	○オープンスクール、学校説明会
令和5年	1月	○前期選抜検査の受付
	2月	○前期選抜・合格者発表
	3月	○後期選抜・合格者発表
	4月	○学科改編による新1年生の入学

令和5年度（2023年度）入学生 教育課程表（案）

単位	大学科： 商業に関する学科 小学科： 総合ビジネス科 200名										大学科： 情報に関する学科 小学科： 情報科 40名			単位		
	1年	マーケティング ビジネス分野		国際 ビジネス分野		会計 ビジネス分野		進学コース		スポーツビジネスコース 40名			1年		2年	3年
		2年	3年	2年	3年	2年	3年	2年	3年	1年	2年	3年				
2	現代の 国語	言語文化	言語文化	言語文化	言語文化	言語文化	言語文化	言語文化	言語文化	現代の 国語	言語文化	言語文化	現代の 国語	言語文化	言語文化	2
3		論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語		言語文化	論理 国語		論理 国語	言語文化	
4	言語文化	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	論理 国語	4
5	地理 総合	公共	歴史 総合	公共	歴史 総合	公共	歴史 総合	公共	公共	地理 総合	公共	歴史 総合	地理 総合	公共	歴史 総合	5
6																
7	数学 I	数学 II	政治・ 経済	数学 II	政治・ 経済	数学 II	政治・ 経済	数学 II	歴史 総合	数学 I	数学 A	数学 A	数学 I	数学 A	政治・ 経済	7
8	科学と 人間 生活	数学 A	数学 II	数学 A	数学 II	数学 A	数学 II	数学 A	政治・ 経済	科学と 人間 生活	生物基礎	物理 基礎	科学と 人間 生活	数学 II	数学 II	10
9		生物基礎		生物基礎		生物基礎										
10	体育	体育	(選択) 化学基礎 生物基礎	体育	(選択) 化学基礎 生物基礎	体育	(選択) 化学基礎 生物基礎	体育	生物 基礎	数学 II	体育	体育	体育	体育	体育	12
11		体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	13
12	保健	保健	体育	保健	体育	保健	体育	保健	体育	保健	英語 コミュニ ケーション II	英語 コミュニ ケーション II	保健	英語 コミュニ ケーション II	(選択) 物理 簿記	14
13	(選択) 音楽 I 美術 I 書道 I	英語 コミュニ ケーション II	英語 コミュニ ケーション II	英語 コミュニ ケーション II	英語 コミュニ ケーション II	英語 コミュニ ケーション II	英語 コミュニ ケーション II	英語 コミュニ ケーション II	保健	英語 コミュニ ケーション I	英語 コミュニ ケーション II	論理 表現 I	英語 コミュニ ケーション I	英語 コミュニ ケーション II	体育	15
14	英語 コミュニ ケーション I	家庭 基礎	論理・ 表現 I	英語 実践	論理・ 表現 I	家庭 基礎	論理・ 表現 I	英語 コミュニ ケーション II	英語 コミュニ ケーション II	家庭 基礎	音楽 I	音楽 I	家庭 基礎	音楽 I	17	
15	ビジネス 基礎	マーケ ティング	課題 研究	中国語	英語 実践	財務 会計 I	課題 研究	論理・ 表現 I	体育	英語 コミュニ ケーション III	スポーツ 理論	スポーツ 理論	情報 産業と 社会	情報 テクノロジー	英語 コミュニ ケーション II	18
16	簿記	財務 会計 I	総合 実践	家庭 基礎	中国語	総合 実践	家庭 基礎	家庭 基礎	英語 コミュニ ケーション III	簿記	財務 会計 I	ビジネス マネジ メント	課題 研究	情報 テクノロジー	情報 実践	21
17		原価 計算	商品 開発 と流通	財務 会計 I	課題 研究	原価 計算	財務 会計 I	課題 研究			財務 会計 I	課題 研究	原価 計算	ソフト ウェア 活用	総合 実践	情報 システム の プログラ ミング
18	情報 処理	ソフトウェア 活用	(選択) ビジネス マネジ メント	原価 計算	総合 実践	ソフトウェア 活用	財務 会計 II	(選択) グロー バル 経済 財務 会計 I ソフト ウェア 活用	情報 処理	ソフトウェア 活用	ソフトウェア 活用	(選択) マーケ ティ ング ビ ジ ネ ス 法 規	情報 システム の プログラ ミング	情報 セキュリ ティ	(選択) 情報 実習 コン テン ツの 制作 と 発 信	23
19	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	24
20	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	25
21	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	26
22	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	27
23	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	28
24	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	29
25	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	30
26	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	31

教科「商業」の科目
 スポーツ系の科目
 教科「情報」の科目